

第15回 下野市行政改革推進委員会会議録

日時	平成24年2月17日(金) 午後1時30分～3時30分
場所	下野市保健福祉センターゆうゆう館会議室
出席委員	杉原弘修会長、飯島陽子委員、金子伸禄委員、高山忠則委員、田辺伸一委員、渡辺欣宥委員、関口博之委員
欠席委員	前原保彦委員
出席者	広瀬市長、板橋副市長、川端総合政策部長、伊沢市民生活部長、田中健康福祉部長、落合産業振興部長、大門建設水道部長、鶴見教育次長、伊沢総務課長
事務局	上野総合政策課長、星野主幹兼課長補佐、金田主幹、古口副主幹、古口主査
傍聴者	なし

○次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
 - (1)会議録署名人の指名
 - (2)第14回行政改革推進委員会会議録(案)の確認
 - (3)行政評価市民評価報告書(案)について
- 4 行政評価市民評価報告書の提出
- 5 市長との意見交換
- 6 その他
- 7 閉会

○あいさつ

(杉原会長) 本日は第15回目の行政改革推進委員会になります。行政評価市民評価報告書(案)が配布されております。委員の皆様には、長時間に亘るご議論を実施していただきまして、本当にご苦勞様でした。本日はこの報告書(案)について最終的なご審議をしていただく予定です。また、今年度は本日で最後の委員会となりますので、よろしく願います。

○議事

(1) 会議録署名委員の指名

(杉原会長) 会議録の署名委員の指名を行います。本日の会議録への署名委員は、

田辺委員と関口委員にお願いします。

(2) 第14回行政改革推進委員会会議録(案)の確認

(杉原会長) 事務局から説明をお願いします。

(事務局) 前回(第14回)の会議録の確認になります。事前に内容等のご確認をさせていただき、3名の委員から修正のご意見が提出されました。修正内容については、いずれも修正案のとおり訂正することとし、本日の資料は修正済みの内容となっています。

(杉原会長) 事務局が説明した以外にも含め、修正点がありましたらお願いします。無いようでしたらこれで確定となりますがよろしいでしょうか。

(委員) <異議なし>

(3) 行政評価市民評価報告書(案)について

(杉原会長) 事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料にもとづき説明。

- ・報告書(案)の1ページには、「1はじめに」として委員会を代表し、杉原会長のコメントを掲載しました。
- ・2ページの「2市民評価の目的と評価の役割分担」は、行政内部の庁内評価と本委員会を実施しました市民評価の役割の違いについて解説し、3ページには行政評価市民評価全体のプロセスをわかり易くするためのフロー図を掲載しました。
- ・4、5ページの「3評価の対象」は、市民評価の対象とした30事業について、市の庁内評価である事業推進方針と共に一覧表として掲載しました。
- ・6ページの「4評価の視点」は、市の庁内評価に対し、妥当か妥当でないかを評価する市民評価について、庁内評価のプロセスと同様とする「必要性」「熟度・緊急性」「効率性」の考え方について掲載しました。
- ・7ページの「5評価結果」は、市民評価の結果について、I～IVの項目別数や評価内容について掲載しました。
- ・8、9ページは、庁内評価と市民評価の結果を30事業の総括表として掲載し、10ページから46ページには、1事業ずつ事務事業名や評価結果などを項目別に掲載し、さらに各委員の個別意見についても掲載しました。
- ・47ページは、「6来年度以降の行政評価の運用改善に向けた意見」として、各委員からの運用改善等に関するご意見等について掲載しました。

- (杉原会長) 報告書(案)については、あらかじめご確認いただいておりますが、改めまして、各委員のご意見に沿わないこと、或いは追加して記入すべきことなどがありましたら、ご意見をお願いします。
- (金子委員) 2ページの最後に「庁内評価が妥当か妥当でないかを診断する。」とありますが、診断という表現はどのようなのでしょうか。評価ではないのでしょうか。
- (事務局) 診断という表現については、担当課とのヒアリングや各委員個別の評価、そして委員会として協議した内容など、いろいろな評価要素により総合的に判断していただいたという意味で診断という表現にしました。
- (杉原会長) 一般的な評価のさらに一歩先の厳しい評価というイメージを表現したものが、診断であると思いました。47ページの運用改善についても厳しい内容であると思うので、個人的にはこの表現で良いと思いました。
- (関口委員) 4、5ページの評価対象事業一覧で、市の庁内評価が「内容見直し」というものがありますが、新規事業で内容見直しという評価は疑問が出ます。経常的な事業なら分かりますが、各担当課から新規事業として提出されたものが、「積極的に推進する事業、または計画どおり実施する事業」ではなく、「事業内容を見直しながら実施する事業」になるのはどういうことでしょうか。
- (事務局) 庁内評価では、一定のルールに基づき、事業をA・B・C・C'・D・E・Fの7段階に評価しています。A・B評価を「積極的に推進する事業、または計画どおり実施する事業」、C・C'・D評価を「事業内容を見直しながら実施する事業」、E・F評価を「当面実施しない事業、または廃止・休止する事業」とし、3つの事業推進方針として区分しています。市民評価には「積極的に推進する事業、または計画どおり実施する事業」、「事業内容を見直しながら実施する事業」と評価された事業について実施しています。
- (川端総合政策部長) 市民評価では、この4年間で120事業を見ていただきましたが、全体では約500事業になります。毎年、この約500件の事務事業のシートを作成する上で、1事業ずつ自ら担当する事業を評価し、精査しながら、毎年実施する事務事業に結び付けています。今回提出していただく報告書の評価結果やご意見等についても、各部署において十分に考慮し、事業を実施していきます。
- (関口委員) 今回、市民評価の対象とした30事業の中で、庁内評価が見直しとされた事業が約半数あり、見直しが多いと思いました。新規事業の件数は全体に対してどのくらいなのでしょう。
- (杉原会長) 5ページの市の事業推進方針区分には3つあり、関口委員のご意見は今まで実施していない新規事業がなぜ見直しする事業になるのかとい

うことだと思えます。この新規事業において見直しというのは、その事業の計画自体に疑問が出てきます。このような新規事業は、約 500 事業の中で何パーセントくらいかということだと思えます。

(金子委員) 一般の企業でいえば、事業案を作成していく過程で評価するという事でしょうか。

(関口委員) 事業案の作成過程で評価し、実施する計画が出来ていると思えます。1年くらい実施した事業では実績等は分からないと思えます。特に企業の内部では、この程度に実施された事業の評価は、まだ積極的に推進しなければならない事業という段階であると思えます。そのため、市民評価においては、新規事業に対し、見直しという評価は理解できますが、庁内評価において見直しという評価は無いのではないかと思っています。

(川端総合政策部長) 4、5 ページの市民評価の対象としました 30 事業の一覧表の中では、新規事業は 2「市内循環バス運行整備事業」と 3「環境基本計画策定事業」の 2 事業になります。総合計画に掲載されていない事業は原則として実施しないということになってはいますが、一昨年に流行した新型インフルエンザの対策事業など、社会情勢の変化により、例外として実施する場合があります。そのため、市民評価の対象事業においては、新規事業はあまり対象となりません。

(関口委員) 「市内循環バス運行整備事業」については、現在は実施している事業になると思えます。実施されている事業については、実績を見て評価されると思えますが、実施する事業案の段階において市民評価が実施されれば、効果はさらに大きいと思えます。市民評価の時期的な問題もあると思えます。

(杉原会長) 2 ページの最後の「本委員会では、すべての事務事業の中から選定・抽出された一部の事務事業について、庁内評価が妥当か妥当でないかを診断する。」のとおり実施してきました。関口委員からのご意見は、半年或いは1年程度実施した事業と10年以上実施してきた事業の評価スタンスが同じというのはどうかということだと思えます。47 ページの運用改善に向けた意見で「事業を把握する上で必要となるデータが不足している。」とあり、私はこれに尽きると思えます。今後の市民評価においては事業の性格を考え、さらに庁内評価の視点を市民評価に加えるということも考えなければならないと思えます。

(田辺委員) 報告書を市長へ提出した後はどのようになりますか。

(川端総合政策部長) 報告書を尊重し、次年度の事業に反映させていきます。また、妥当でないとして評価された事業については、見直し等が見えるように指示します。

(高山委員) 約 500 件の事務事業がある中で、4 年間で 120 事業の市民評価を実施

してきましたが、今後はどのようにになりますか。

(川端総合政策部長) 市民評価は、総合計画に位置付けられている事業や事業費が高額である事業、さらに法令等による事業や市の裁量が少ない事業などを全体から除きますと約 120 事業になります。これらの事業を総合計画前期基本計画と同期間の 4 年間で、1 年間に 30 事業ずつ評価していくという趣旨で実施し、客観的な評価やご意見をいただけてきました。また、委員による事業選択というご意見等も伺いましたので、今後の実施方法等について検討してまいります。

(杉原会長) 報告書の修正内容についてのご意見は無いようなので、修正なしでよろしいでしょうか。

(委員) <異議なし>

○行政評価市民評価報告書の提出

《 杉原会長から広瀬市長に報告書が提出されました。 》

(広瀬市長) 行政評価市民評価については、長期間に亘りご議論をいただきまして感謝申し上げます。また、短時間で実施いただいたヒアリングについても、1つ1つをクリアにさせていただいたことは、今後に反映させていきたいと思っております。

合併後の下野市の体力も上がってきており、その中でこの場所にあった地域づくりを推進していきたいと思っております。今後も皆様からのご意見や本日ご提出いただいた報告書を謙虚に受け止め、努力してまいりたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

○市長との意見交換

(杉原会長) 本日は、市長さん、市の執行部の方がご出席されています。折角の機会ですので意見交換を実施します。各委員の自由なご意見を願います。

(関口委員) 今回、やや妥当でないと評価した 3 つの事業の中で、「健康づくりトレーニング事業」があります。趣旨は良いと思えますが人件費が高いという印象です。そのため設備等を拡充し、福祉のまちとしてもっと拡大していただきたいと思っております。

(杉原会長) 健康づくりトレーニング事業は、私も印象深い議論でした。アンケートの取り方が不十分だと思います。この事業では多くの人に利用していただくのが良いと思っておりますので、偏った事業にならないようにして欲しいと思っております。

(広瀬市長) 合併当初、きらら館・ゆうゆう館・ふれあい館の類似する 3 施設については、それぞれ特色を持たせたいという考えからこのようになりま

したが、事業についても一度検討していきたいと思います。

(渡辺委員) 「健康づくりトレーニング事業」のトレーナーについては、外部委託をするのではなく、市の職員に資格を持たせた方が良いと思います。

(金子委員) この事業は、指定管理者制度の導入は無いのでしょうか。

(田中健康福祉部長) 指定管理者制度の導入においては、事業に施設の管理を含めたもの、或いは事業に関連するものといろいろとありますので、検討していきたいと思います。

(飯島委員) 高齢者のための福祉事業については、いろいろと実施していると思いますが、今一つ足りないことを多く感じます。

民生委員による紙おむつ購入券の配布や配食サービスの委託事業についても、市の職員やボランティアの活用も加えてもらいたいと思いました。最近では介護認定前のひとり暮らしの高齢者が増加していますので、福祉事業に財産管理なども含めた支援が必要と思います。

(田中健康福祉部長) 民生委員には、地域の皆様と接点を持っていただくという趣旨の一つとして、紙おむつ購入券の配布をお願いしています。配食サービスについては、合併前までは一部の地区においてボランティアで実施されていましたが、合併後は市内全域とした事業展開の中で、実施回数や個数が増加するなど、ボランティアでは難しいものがあります。また、市の防災訓練では、民生委員のご協力により、緊急時の対応として独居老人の把握について実施いたしました。

(飯島委員) 配食サービスについては、市内全域でなく、一部の地域でも良いのでボランティアを入れて貰えればと思います。

(広瀬市長) ひとり暮らしの高齢者の支援については、県では社会福祉協議会が運営するとちぎ権利擁護センターあすてらす等があります。市においては、現在、地域福祉計画を策定しており、その中で検討しています。

(渡辺委員) やや妥当でないという評価した3つの事業の一つで、「小学校コンピュータ管理事業」があります。高額なリース料について私の考えは、リース方式の導入をやめて購入を前提とした方式の検討をしていただきたいということです。パソコン市況の下落幅は大きく安価にて購入でき、管理費用も下げられると共に市の専門職員配置で対応した方が良いのではないのでしょうか。それから、説明にありました第3の機関により導入等を検討するとはどういうことでしょうか。

(広瀬市長) 情報機器等の更新や導入に関して、受注業者以外の専門的な知識を有する第3の機関からの意見を参考にして行う方式を考えています。また、専門の職員については、常に最新の情報を得るため、外部アドバイザーが必要と考えています。

(渡辺委員) 可能であれば、近隣の自治体と連携して導入すれば、更に安くなるのではないのでしょうか。

- (広瀬市長) 自治体により導入するメーカーや責任の所在が不明になり、さらに予算とも関係するため作業が煩雑になると思います。専門の職員については、将来的にはこの地域に住んでいるスキルの高い方の活用も考えています。
- (杉原会長) 報告書において考慮していただきたいのは、各委員の個別意見を検討してもらいたいということです。高齢者への対応も大切だと思いますが、大学生や労働者などの若い人の事業参加があまり無いように思います。また、子供を育てるという事業もあまり見えてきません。そこで、育てる・支える・参加を促すという基本的な考えはどのようなのでしょうか。
- (広瀬市長) 全体的には、お年寄りが安心して暮らし、喜んでいる姿を、若い世代や子供たちが見て、ここに住んで良かったと思えるような地域にしないといけないと思っています。そこで、例えば中学3年生までの医療費の無料化においては、児童生徒はもとより親である若い世代への支援が図られ、それによりお年寄りが安心できるといった、全体像の中で事業に一連性を持たせ、方向性を出してきました。しかし、青年層をターゲットとしたものが見え難いと思いますので、市のポテンシャルの中で何かを考えなければと思っています。
- (関口委員) 下野市が発展するには、人口を増やしていくことだと思います。これに対する対策を出してもらいたいと思います。
- (広瀬市長) 市の人口については、ある地域では減少、別の地域では増加、結果としてプラスマイナスで0という感じです。週末人口や定住人口などの人口増加策については、いろいろな方面からも研究していきます。

○その他

- (事務局) 本日の会議録については、各委員へ郵送又は電子メールにてお送りしますので、内容についてご確認願います。その後、署名委員と会長の確認をいただいて、確定させていただきたいと思います。

以上